

② 考え、対話する **道徳科** の事例

本時のねらい ロレンゾのことを心配する3人の友達の考えなどを話し合うことで、互いに信頼し合い健全な友達関係を築くことの大切さに気づき、互いを高め合える友情を深めていこうとする。

学習活動



つかむ

1. 友情に関わる児童のアンケートを提示し、友情について考える。
2. 学習課題に興味をもつ。



考える・話し合う

3. アンドレ、サバイユ、ニコライの考えについて自分と関わらせて考え、話し合う。
○自分の考えは、3人の考えのどれに近いですか。

◎かしの木の下で3人が話し合ったことを言わなかったのはどうしてでしょう。

○「本当の友だち」とはどのような関係ですか。

4. 自分を見つめ、友だちと自分の関係を振り返る。



見つめる・振り返る

5. 詩を聞く。
6. 本時の学習を振り返る。

予想される児童の意識

- ・友だちに良く思われたいと思っているんだな。
- ・友だちに傷つけるようなことは言わないようにしている。
- ・友だちが困っていたら相談にのる。

学習課題 本当の友だちとは、どういう関係だろうか。

[アンドレ]

- ・お金を持たせて逃がしてやる。
警察につかまるのはかわいそう。

[サバイユ]

- ・自首を勧めるが、ロレンゾの気持ちを大切にしたい。

[ニコライ]

- ・自首に付き添う。嫌なら警察に知らせるべき。
友だちでも悪いことをしたことを許してはいけないと思う。

- ・友だちを犯人扱いした自分たちが恥ずかしかったから。
- ・ロレンゾに悪いなと思ったから。
- ・結果、犯人ではなかったので、終わったことを話す必要はないと思ったから。
- ・誰も話を切り出さなかったので、話さない方がいいと思ったから。

- ・良いことも間違ったこともしっかりと言い合える関係。
- ・お互いが信頼し合え、何でも話せて安心できる関係。
- ・相手がしてほしいことをしてあげる関係。
- ・相手のためになることを一生懸命考える関係。
- ・相手が嫌だと思うことでも、きちんと伝えることができる関係。
- ・相手の思いだけでなく、その先のことなども含めてどうすることが本当に相手のためになるかを考える関係

- ・私が〇〇しそうになったときに友だちが止めてくれたことがある。何でも言い合える関係の友だちを大事にしたい。
- ・別の友達とけんかをしたときに、カッとなった自分をとめてくれたことを思い出した。自分のことを考えてくれてたんだと思う。

- ・相手の思いだけでなく、その先のことなども含めてどうすることが本当に相手のためになるかを考えるようにする。
- ・いけないことはいけないと言い合い、互いに高め合うことが大切だと思う。

評価の視点 ・ロレンゾが自分の友だちならどうするかを、教材の人物と照らし合わせ、自分なりに考えようとしているか。
 ・本当の友だちについて、多面的・多角的に考えようとしているか。

教師の支援 □評価

・教材が長いので、話し合う時間を十分確保するため、内容理解を事前に済ませ、本時を迎える。
 ・児童に友情についてどのように考えているのか **事前アンケート** を取って紹介することで、ねらいとする道徳的価値への動機づけをする。また、本学習が児童の誰にでも関係する「友だち」という、身近な関係性について学習することを意識できるようにし、本学習中の発問に対する主体的な発言が行いやすい雰囲気づくりを行う。

・根拠を考えさせることで、ねらいに迫れるようにする。それぞれの思いについて、3人ともロレンゾのことを思っていることを押さえる。

・タブレットを使い、3人の考えのどれに近いか、全員の **意見が可視化** できるようにする。

□ロレンゾが自分の友だちならどうするかを、教材の人物と照らし合わせ、自分なりに考えることができたか。
 (タブレットの記述内容、発言内容)

・本当の友だちとはどういう関係か、自分と重ねて考えることができるようにする。

・グループで意見を交流することで、友だちの違う意見に気付くようにする。さらに、全体交流で多様な意見があることに気付き、思いをさらに深めていけるようにする。



・自分自身を振り返ることができるように、ワークシートに書くことで、じっくりと時間を取る。ワークシートに記入したことから、多様な考え方が出せるように意図的に指名する。アンケートの結果から把握した実態を活用し、ねらいに迫れるよう意図的に指名する。

□「本当の友だち」について、多面的・多角的に考えようとしているか。(ワークシート・発言)

・友情に関する詩を紹介することで、本当の友情について考える余韻を残す。
 ([私たちの道徳]P73のラ・ロシュフコーの詩など)

・学習の振り返りの視点を与え、ワークシート等に書くようにする。意図的に指名し、学びの高まりが感じられる内容を紹介する。

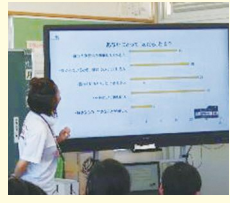


【事前・事後の指導】

国語科の学習「学級討論会をしよう」では、自分の考えを立場をはっきりさせて根拠を明確にして発表する学習と関連させる。日常生活において、帰りの会の場面で、友情について考える機会を意図的に設定する。

授業改善のヒント

アンケートを提示



本時に扱う道徳的価値「友情」について、事前アンケートの結果を提示し、ねらいとする道徳的価値への動機づけを図る。一緒にいることが楽しいと感じる関係を望む結果を確かめながら、本当にそれだけが友情かどうかを課題として提起する。

全員の意見を可視化



3人の考えが自分の心の中にどれくらいの割合であるかを表示 自分は3人の考えのどれに近いかを表示
 3人に自分を重ねて考えることができるように、全員の意見を電子黒板で可視化できるようにする。
 ICTはツールとして活用し、これをもとに意見の根拠を述べたり、他の人の意見に関連付けて発表したりすることが大切である。

深い 学びの鍵

児童生徒の多様な意見を引き出したり、思いを深めたりすることができるように、教師が問い返すなど、話し合いを教師がコーディネートする。座席表を活用し、個々の考えを見取り話し合いに生かす。

- ①補助発問をする。
 児童生徒が分かったつもりでいることに対して、揺さぶる発問を仕組む。
- ②児童の発問に問い返す発問をする。
 - ・問い返しや追求する発問
 「なぜそう思うの」「～ってどういうこと」「本当にそうなの」
 「どうして～の大切さは分かるのに実行できないの」
 「どうすれば～できるようになるの」
 - ・詳述させる発問
 「もっと詳しく教えて」
- ③教師と児童による一問一答ではなく、学級全体に広げて考えられるようにする。
- ④相違点や共通点に気付く発問をする。
 - ・相違点を明らかにする発問
 「あなたなら、どちらを選びますか」
 - ・共通点を明らかにする発問
 「どの考えにも共通する大切なことは何だろう」
- ⑤視点を変え、多角的に考えられる発問をする。
 - ・「～の立場になって考えよう」

話し合いのコーディネート力



考え方の違いに気付かせる工夫



3人の考えの違いをわかりやすく示す